

「良いお年を」？

大家好！大瀧です。あっという間に2024年も終わりを迎えてしまいましたが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。これまで日本で過ごしてきた自分にとって、「12月と言えばクリスマス！年越し！」というイメージが強かったのですが、こちら中国の人々にとっては、それほど重要なイベントではないようです。これは、やはり春節の存在が影響しているようで、日本との違いを実感したタイミングでもありました。実際、街中を見てもクリスマスツリーやクリスマスの限定商品などはあまり見かけず、年越しを迎える日も街の姿は普段とほとんど変わりませんでした。いわゆる年末年始の休業も全くありませんでした。

とは言うものの、僕を含めた留学生にとってはやはり特別なイベントで、クラスメートたちとプレゼントを交換したり、緑や赤の服を着て一緒に写真を撮ったりもしました。大晦日には、太原万象城という大型のショッピングモールにアイススケートをしに行き、時間を共にしました。ただ、やはり「よいお年を」と言葉を交わさない年末は、日本人の自分には少し不思議なものでした。中国語にも“过好年”≒よいお年を、という表現自体はあるのですが、一度も耳にしませんでした。もしかすると和製英語ならぬ和製中国語(?)なのかもしれないですね。



さて、4回目になる今回のレポートでは、先日お伝えしたように現地での食生活に関すること（前編）をお話したいと思います。まず、授業がある日の食生活は基本的に学内の食堂か大学近辺で済ませることが多いです。代表的なものをご紹介します。

- ① 令德餐饮 Lìng dé cān yǐn (よく“令德”や“令德食堂”と呼んでいます) 語学の授業が行われる理科楼から比較的近い場所にある、学内で一番大きな食堂です。2階建てになっていて、種類も沢山あるのでよく行っています。価格はおよそ10~25元の間で、比較的手ごろです。地下1階にはスーパーやコーヒーショップなどが併設されていて非常に便利ですが、留学生の寮からは徒歩20分弱とかなり遠いので、その点だけ注意

が必要です。



- ② 文瀛苑 Wén yíng yuàn (こちら“文瀛”や“文瀛食堂”とよく言います)
寮と理科楼の中間地点にある食堂で、先ほどの令徳餐饮よりは少し小さめです。ただ、アクセスがどの場所からも比較的良いためかなり人が多く、授業直後は席が空いていないこともあります。価格は令徳餐饮と同じか、少し安いぐらいです。こちら地下1階にスーパーがあります。



- ③ 教工餐厅 Jiào gōng cān tīng
寮から徒歩 30 秒の位置にある、一番近い食堂です。その名のとおり、先生方も比較的利用されているところで、学生は少なめです。値段は先ほど 2 つと比べて少し上がりますが、アクセスがいいのでよく利用しています。



④ 许西 xǔ xī

先ほどの3つとは異なり、食堂ではありません。例えるなら、台湾の夜市のような、小さな屋台やレストランが集まった地区です。理科楼から寮までの道の途中に小さなゲートがあり、そこを抜けると『千と千尋の神隠し』のような世界が広がっています。17時以降であれば殆どのお店が営業していて、よく利用しています。お店によって値段はまちまちですが、それでも日本よりもずっと安くて便利です。



今月も最後までご覧いただきありがとうございました。これから派遣される奨学生の参考になれば幸いです。学校外での食生活は、また次回のレポートでお話したいと思います。それでは下个月見！